さいたま市展に成澤君（４組）出品、ミニ同期会開催

《その 1》 10 月 5 日（水）、うらわ美術館（さいたま市浦和区）で開催中の「さいたま市展」へ出かけました。成澤文和君（4 組）は日ごろから風景写真を中心に撮影をしており、昨年に引き続き今年も「市展」写真の部に作品を出展されました。

作品タイトルは「**晩春の渓声**」（下の写真）。彼の写真は、自然風景における神秘的な空間を色と光で表現するのが特徴で、今回の出品作も独特な空間を感じる一品でした。流れ落ちる水に濡れた岩肌と緑の苔が、黒の空間に浮かび上がり、凛とした空間を捉えた美しい作品でした。

当日参加した同期 3 人、宮原豊君（9 組）、成澤君、小宮山豊（2 組）は、鑑賞後、成澤君紹介の「うなぎの満寿家」へ移動。ビールで乾杯した後は、写真談義と宮原君のインドの話などで盛り上がりました。生憎、当日は小雨と寒さが重なり、中山道散策と調神社参拝はパスとなりました。

（2022 年 10 月 6 日、小宮山豊記）

成澤君の作品を真ん中に左から
成澤、小宮山、宮原　⇒

《その 2》 10 月 7 日（金）、「うらわ美術館」で開催されているさいたま市展に出品している成澤文和君（４組）の写真を鑑賞するため、成澤君を含め４名の同期（上原昇、関賢治：2 組、中山正光：11 組）が集まりました。コロナ対策で少人数に分けた第 2 班です。

二日前の第 1 班同様、冷たい雨模様の中、高崎市から 4 年ぶりに鈍行電車で 1 時間半かけてはせ参じた私を、成澤君が浦和駅まで出迎えてくれ会場まで案内してくれたのは嬉しかったです。

会場に着くと上原、関両君も着いていて、検温のあと 4 人揃って展覧会場に入りました。

広い会場には写真だけで 150 点近くの力作が展示されていました。

入場して直ぐ、関君が成澤君の写真を見つけてくれたのには驚きました。さすが、建築業界で培った眼力だと恐れ入りました。
成澤君の作品は「**晩春の渓声**」という題で絵画的な出来映えでした。
ここでも関君は「大きな滝を全部写さず、半分より下を切り取っているので、迫力があり余韻がある。音楽が聞こえてくるようだ。」とのコメントを。
成澤君が沢山の写真から、「何とか賞」を獲得した作品を「なぜ選ばれたか」を懇切丁寧に説明してくれました。ド素人の皆から無責任極まりない選評が相次ぎましたが省略します。
鑑賞後、会場を後にして、雨の中、玉蔵院、調神社を参拝して、昼食場所の「鰻の味の名門・満寿家」へ。成澤君を除く 3 人は当然の如く「うなぎランチ」を注文しましたが、二日前にそれを食べた成澤君は穴子重を注文。ビールを飲みながらいろいろな会話が始まりました。
話題は「残念にも物故したり病気療養中の仲間」、「仕事を未だ頑張っている仲間」、「市村到君（4 組）の最近上梓した厚い本」、「先日鬼籍に入った円楽師匠」など多岐にわたりました。
会計が済んでから、風も雨も酷い中、浦和駅まで歩き、皆さんと再会を約し散会しました。
（追）往復の電車の中で、拙い句を認めました。有名人のことですが、分かりますか。

・アントンよ！迷わず行けよ芒道（すすきみち）
・いつか死ぬ噺を秋の高座より
・天高く五十六号神憑り
（22年10月7日、中山正光記）
以上

⇐会場にて、左から成澤、中山、上原、関

↓うなぎの「満寿家」にて、左から関、上原、中山、成澤